

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の異議や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティング等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を報告し合い、改善議題を話し合ったりと取り組んでいる。また、これまでの評価結果を公表し、取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現場や利用者の課題解決のため市町村へ解決策を相談したり関係づくりを行うように取り組んでいる。運営推進会議、自己、外部評価の報告も確実にやっている。	○ 市町村担当者に対して、事業所の実態やサービスの取り組みについて今後更に報告、相談し関係作りを積極的に行っていきたい。
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が外部評価に参加しており、職員へ伝達している。家族に対しては制度について情報提供をし、制度を希望する方がいる場合には、管理者が中心となって支援している。	○ 今後更に、機会あるごとに職員への説明を行うとともに勉強会でも取り上げ、職員の理解を深めていきたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルが整備され、全職員が虐待防止に関して理解をしており、またお互いに、チェックし合えるような体制をとっている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定し顔馴染みの職員による対応を心掛けている。職員が変わる時は十分に引き継ぎをし、スムーズに対応できるようにしている。		
5. 人材の育成と支援			
17 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が参加できるように計画している。研修に参加した場合は、復命書を提出し研修内容を全職員が共有できるようにしている。内部研修にも取り組んでいる。		
18 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの圏域にあるグループホームの職員との交流と、勉強会を行うための、講師や場所の提供にも積極的に取り組んでいる。また、他グループホームとの訪問し合い職員同志の交流も深めている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。親睦会を開催し気分転換を図れる機会をつくっている。職員同士の間関係も把握するよう努めている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	頻度に現場に来ており、職員の業務を把握している。また職員の資格取得に向けた支援を行い本人の意向を重視しながら、取得後は、職場内で活かせる環境をつくっている。職員が向上心を持てるよう職能評価を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期面談で、生活状態や本人の求めている事ことや不安を理解しようと努力している。サービス利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身状況や本人やご家族の思いを傾聴している。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が求めている物を理解し、これまでのご家族の苦労や敬意について、ゆっくりと話しを聞くようにしている本人やご家族の思い等を確認し支援の提案相談を繰り返し、必要に応じてケアマネージャーとも連携し対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、ご家族がグループホームを見学してものことから始め、納得してサービスを利用できるよう、ご家族とも話し合っている。すぐに入所になった場合には、ご家族に来てもらうようにし、安心感を持ってもらうようにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩として尊敬しており、日常的に料理や農作業等利用者の得意分野を教えてもらうことが多く、このような場面を作るように心掛けている。お互いが協力して生活できるように取り組んでいます。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や職員の思いを細やかに伝え、本人と一緒に支えるため協力している。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家の状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごせるよう支援したり、ご家族に行事等に参加していただいたりしながら、良い関係が継続できるように努めている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人や馴染みの知人の家に遊びに行ったり、今まで利用していた美容院へ行ったりと継続的な交流ができるよう支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係について、職員全体で共有し、みんなで楽しく過ごす時間や、気の合う利用者同士で過ごせる場面作りをするなど、孤立しないよう支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了されても、相談等に応じる姿勢を示している。またサービス終了後も手紙を出したり付き合いを大切にしている。相談に応じることで大変喜んで頂けている。亡くなられた利用者のご家が訪問して下さったり。野菜を送ってくれたりする。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけたり、表情を汲み取ったり、本人の意向の把握に努めている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問し、利用者、ご家族からの生活歴について情報収集し、利用後も本人からの語りなどで把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、できること、分かる力に注目し、全体の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や、ご家族との日々のかかわりの中で、意見や思いを聞き介護計画に反映させている。職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを定期的に行っている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回は利用者の状況、介護計画を確認し、状態が変化した場合その都度、話し合い検討見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録に日々の暮らしの様子や、本人の言葉、状態の変化を記録し、いつでも全職員が確認できるようにしている。また記録は介護計画に沿った記録を心がけ、月1回はまとめを記録し、計画の見直し、評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、ご家族の状況に応じて通院や送迎の支援を行い、また医師、看護師との連携のもと医療処置を受けながら生活ができるよう柔軟な対応をするなど努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域で暮せるよう、民生委員、交番や地域の方々等と交流する機会を設けている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望や状況に応じて、町内の訪問美容サービスを利用したり、近隣事業所と話し合い、交流が持てるよう支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議の参加は勿論、行事等への参加も働きかけ参加して頂いている。また勉強会の開催や情報交換、相談することによって協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が 失われないよう、今までの生活環境、注意が必要 なことについて情報交換している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを損ねるような言葉か けはしないよう、勉強会やミーティングで確認し 合い、あからさまに介護したり、声がけしたりし ないようさりげない対応に配慮している。		
48 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	利用者に合わせて声をかけ表情を読み取り、職員 側の都合や押し付けにならないよう、選択肢を提 案し利用者が決める場面をつくっている。		
49 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	一人ひとりの状態や体調に配慮しながら、その時 の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別な対 応を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	朝の着替えは基本的に、本人の意向で決めており、見 守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。本人 の馴染みの理美容院でカットや毛染めをしてもらえる よう連携を取っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立とし、体調、状況をみながら調理、盛り付け、配膳、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が一緒にテーブルで楽しく食事がとれるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
52 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこ、お酒については主治医の許可を必要とするが、現在希望者はいない。馴染みに嗜好品を把握し本人の様子を見ながら、楽しめるように支援している。		
53 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表を作成し、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。オムツを使用している方もトイレでの排泄を促し、オムツ使用を減らしてトイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。		
54 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行われ、希望にあわせ好きな時に入浴できるよう支援している。入浴を拒む方には、言葉かけや対応を工夫している。		
55 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や希望を考慮しゆっくり休息が取れるよう支援している。寝付けない方には添い寝したり、暖かい飲み物を飲みながら会話したりする等配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った得意な事や、役割を支援し、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、ドライブや買い物などに誘い気晴らしになるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力のもと、小額のお金を持っている方もおり、家族よりお金を預り事業所が管理している方でも、買い物時は、自分で払っていただくような支援をしている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日や本人の気分や希望に合わせて散歩、買い物、ドライブに出かけている。歩行困難な方は車椅子を利用し外出できるよう支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとりの思いや希望を聞きながら家族や他利用者と出かける機会をつくり支援している。また、マイクロバスを借りて、ホーム全体や近隣のグループホームの利用者とも出かける支援も行っている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人には自由に電話ができるよう支援しており、子機の使用により居室で他には聞こえないようプライバシーにも配慮している。手紙のやり取りも行っており希望にあわせ代筆の支援も行っている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた時には、笑顔で出迎えるよう全職員で心がけている。お茶やお菓子を提供し会話が楽しめるようなスペース作りを気兼ねなく過ごしていただけるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、全職員で理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。またミーティングや申し送りで確認し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、把握し、自由な暮らしと事業所の取り組みについてご家族に丁寧に説明し理解を得られるよう努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックの他、普段から状況を把握し、少しでも食欲や顔色、様子の変化があった場合は、直ぐに管理者に報告し、職員間で共有し対応している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬情報がファイルしてあり、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は必ず見守りを徹底している、薬の処方変更になった時や状態に変化が見られるときには、いつもより詳細に観察、記録し、協力医との連携を図れるようにしている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品、野菜ジュースを献立に取り入れている。排便チェック表にて排便リズムを把握し、薬にはなるべく頼らず散歩や家事等で身体を動かす機会をつくり自然排便できるよう取り組んでいる。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声がけをし、利用者の状況に応じて見守り、介助している。就寝前は義歯洗浄を行っている。これまで習慣がなかった方にも本人の意思を尊重しうがいすることから始め習慣化できるよう支援している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事や水分量を記録し職員で情報を共有している。また同法人の管理栄養士に献立、カロリーをチェックしてもらおう等専門的アドバイスをしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者、職員ともにインフルエンザの予防接種を受けている。感染予防に関するマニュアルのもとに予防、対策に努めている。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾、コップ等はハイター消毒し、調理器具等は食洗機にて熱消毒している。食材は用途に合わせ冷凍やチルド保存し、野菜は畑作などや同法人の畑より新鮮なものが届く。冷凍庫点検や掃除も定期的に行い。毎日チェック表に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、手作り看板を設置し園庭にはガーデニングや畑を作りイスを置いて誰でも座って会話できるようにしている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所より家事の音、調理の匂いが利用者に伝わり安らいでいる。照明やテレビの音には常に気を配り調整している。フロアの飾りつけにも季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや椅子、テーブルを置き、気の合った利用者同士が過ごせるよう配慮し、また共有空間にいながらも、一人でテレビや本を見たり過ごせる居場所や環境づくりを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	家族と相談し今まで自宅で使用していた、タンス や椅子を持ってきたもらったり、仏壇や位牌を持っ てきている方もいる。家族の写真を飾ったり、使 い慣れたものを傍に置くことで居心地よく過ごせ るよう配慮している。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室は24時間換気システムが備えられ、毎日温度 と湿度を記録している。利用者の状況や様子を見 ながら、空気の入替えをし調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが設置されてお り、段差もなく車椅子で安全に自走移動ができ る。また利用者の状態に合わせて環境が適してい るかを見直し自立への配慮を心がけている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	本人にとって何が分かりにくいのかを把握し、ド アに目印をつけたり状況に合わせて環境整備に努 めている。混乱や失敗が見られた場合にはその都 度、職員で話し合い、力を取り戻せるよう支援し ている。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	園庭に花を植えたり、畑を作ったり利用者が日常 的に草取りをしてくれたりと活動的に過ごせるよ うな環境を作っている。また長い廊下を歩行訓練 として利用したり、小上がりの畳のスペースは横 になったり、洗濯物をたたんだりしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・法人医師による往診のほか、日祝祭日、夜間についても利用者の緊急時は直ぐに対応できる体制を整えまた医師、看護師との連携のもとターミナルケアを実施し最期まで看取ります。
- ・セラピードックを導入し、認知症高齢者のケアに活用しています。笑顔で話しかけたり、一緒に散歩したりすることで健康維持にもつながっており、また近隣の方たちとの交流に役買っています。
- ・できることは奪わず、できないことは強要せず、一人ひとりに合わせたケアを提供できるようまた、世話になっていると思わせないさり気ないケアを目指し取り組んでいます。